



Sasayama Elementary School

学校だより

自分大好き、友だち大好き 進め！笹山の子

令和元年 1月7日発行

令和元年度 第9号

横浜市立笹山小学校

TEL 382-1161 FAX 381-7384

『みなさんが考えるほど、困っていません』

学校長 荻原規彦

「ガチャーン」体育館に大きな音が鳴り響きました。車いすと車いすが正面でぶつかり、その衝撃で選手が浮き上がる様子を見た子どもたちや先生たちはびっくりしました。12月10日(火)に車いすラグビーの選手をお招きして行われた人権週間の出前授業の始まりの一コマです。今回は車いすラグビーの選手3名とマネージャー1名に来ていただき、体育館で車いすラグビーを体験しました。事前に車いすラグビーを紹介するビデオを見ていたので子どもたちはある程度イメージを掴んでいましたが、実際の競技用の車いすは頑丈にできていて、小さなタイヤが前後について、大きなタイヤは回転しやすいようにタイヤは斜めについて、ぶつかっても大丈夫なようにカバーがついています。値段は『軽乗用車一台分ぐらい』で、ニュージーランド製(ラグビーの本場！)でした。説明の後、実際に子どもは手袋をはめて競技用の車いすに乗り、スラロームのコースでパイロンを倒さないようにすり抜け、選手に希望するタックルの強さを申告し、選手のタックルを受けました。



最初は怖がっていた子どもたちも「もう一回やりたい！」と訴えるほど印象深い体験でした。東京パラリンピックで子どもたちが車いす

ラグビーを見たとき、この衝撃のことをきつと思いつくことでしょう。

その後6年生と選手の混成チームのゲームでは、上手に車いすを操作しながら相手にタックルして、車いすラグビーを楽しむ子どもたちの姿が見られました。こうなると選手・子ども、障害のある・

なしは、関係ありません。

質問コーナーでは、子どもたちの「車いすで困っていることは何ですか？」の質問に対して「皆さんが考えているほど、困ったことはありません。一人では行けない場所もありますが、その時は周りの人に手伝ってもらいます。」という答えでした。子どもたちは一瞬「え？」という表情を見せました。予想していた答えと違っていただけでしょう。車いす＝困っている＝助けてあげる、という構図が少し揺らぎ始め、何かをしてあげる対象から、一緒に楽しむことの大切さに気が付いたことでしょう。今回の車いすラグビーは子どもたちにとって、大きな財産になったと思います。

世の中にはいろいろな人がいます。そのすべてを包み込むような温かい社会になっていくことを願うばかりです。



※今回の取組は、『NPO 法人 元気な地域人の会』様より助成をいただきました。

笹山小学校としては、残り3か月となって一つの区切りを迎えます。子どもたちの充実した学校生活のために、一日一日を大切にして、職員一同最後まで全力を挙げて取り組んでまいります。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いします。